

国際フォーラム報告

司会

さあ、皆様大変お待たせいたしました。長時間で咽もお乾きだと思いますが、そろそろ会場の方へお入りください。続いてのプログラムは国際フォーラムの報告でございます。先程からご案内申し上げたように、昨日国内外の研究者の方々と雪舟サミットの参加市町の若者、地元川崎町の若者が膝を交えまして本音で話合いました。友好と親善を深めて、21世紀の町づくりに向けて国際フォーラムが行なわれました。大変に実のあるフォーラムだったようでございます。では、そのフォーラムに参加された皆様をご紹介します。どうぞ大きな拍手でお迎えください。この方々でございます。(拍手)

たくさんの皆様が参加されたわけですから、お一人ずつご紹介して参りましょう。まず、海外からのお客様でございますが、イギリスからお越しのデービット・クルッカルさんです。コーディネーターをつとめていただきました。(拍手)次にアメリカからのお客様でアレクサンドラ・バーンスタインさんです。(拍手)同じくアメリカからのお客様でリチャード・チャドウィックさんです。(拍手)同じくアメリカからリング・リーダーマンさんです。(拍手)お隣にいらっしゃいますのがご主人様で、ぜひ日本に来たい、川崎に来たいということで一緒に参られましたルイス・サロモンさんです。(拍手)続きましてイスラエルからのお客様でヒューバート・ロウヨンさんです。(拍手)次はフィリピンからお越しのフロロジト・ピメンテルさんです。(拍手)続きましてアメリカからのお客様でディーマ・デシルバさんです。(拍手)もう一方いらっしゃいます。アメリカからお越しのリチャード・ティーチさんです。(拍手)どうぞよろしくお願い致します。

それでは今度は国内の招待者でございますけれども、昨日のコーディネーターをつとめていただきました、近畿大学九州工学部教授でいらっしゃいます新井潔さんです。(拍手)続きまして愛知県立大学文学部助教授でいらっしゃいます兼田敏之さんです。(拍手)続きまして国際大学グローバルコミュニケーションセンター助教授でいらっしゃいます出口弘さんです。(拍手)流通経済大学経済学部助教授の中村美枝子さんです。(拍手)福岡大学経済学部助教授の根本敏則さんです。(拍手)スプレッドグループ基金合資会社社長の國分裕之さんです。(拍手)この皆様が国内外の招待者でございます。そして、皆様のサミット参加市町の皆様をご紹介します。後の席にお並びでございますが、大野町からは足立さんと三代さんのお二人です。(拍手)総社市からは武田さんと佐野さんのお二人でございます。(拍手)益田市からは武内さんと藤岡さんでいらっしゃいます。(拍手)山口市からは福永さんでございます。(拍手)芳井町からは田辺さんと藤井さんでございます。(拍手)そして私どもの地元の商工会議所の青年部でございます樋口秀隆さんです。(拍手)

この皆さんで昨日楽しいフォーラムが行なわれたようです。このお時間は昨日の報告をしていただくお時間です。まずリチャード・ティーチさんにご報告いただきます。私は通訳の方と交代いたしますので、よろしくお願い致します。

リチャード・ティーチ

(通訳) 皆さん今日は。本日はここで国際フォーラムの参加者と共に皆さんとお話できることを大変光栄に思います。私たちは昨日みんなで集まりまして、いろんな考え方を交換いたしました。一人一人の参加者がそれぞれに抱えている世界の小さな一部を見てきたわけですが、そこに問題があるとわかったわけです。ですからそこから先の問題は、いかにして問題全体像、世界全体像を見ていくかということでございました。と申しますのも、多くの場合問題そのものの中に解決策が隠れていることがあるからです。例えば参加者の中で問題を掲げた方は、元炭鉱地域であったために高齢者が多いということを問題の中心に据えてお話されました。また、別の方は子供達の教育問題、お年寄りの方からいかに伝統文化を引き継いでいくか、そういうことを問題の中心にしてお話されました。この二つを一つにすると、そこにおのずから解決策が生まれるわけです。と申しますのも、子供達とお年寄りを結び付けることによって、子供達はそのお年寄りからいろいろなことを学びたいという気持ちになってまいります。そしてお年寄りの方も誰かから必要とされたいという気持ちを持っておりまして、また自分達のもっている伝統文化を誰に伝えたいという気持ちを持っておりまして、そして若者達、子供達の方も誰か世話をする相手、また自分達を気遣ってくれる相手が必要ですし、本を読んでくれる人だとか、そういう人が必要なわけです。そして同時にお年寄りを尊敬したいという気持ちを持っておりまして、もちろん「言うは易し、行なうは難し」といいます。しかしある程度の企画と枠組みを作ってしまうと、お年寄りと子供の問題が一緒に解決できると思いました。

それからもう一つのアイデアですけれども、日本経済に果たした炭鉱の重要性を考えてみた時に、この地元独特の歴史があるわけです。そしてこの方々は炭鉱で働くことがどうであったかという思い出をたくさん持っているはずなんです。そこで、その思い出をたくさん持っている方々に当時の思い出を話していただいて、誰かが口述筆記するわけです。炭鉱で働くということは実際どういうふうであったかという経験を話していただいて、最終的にそれを本に編集する。地元の炭鉱の歴史のみならず、それが日本全体に与えた影響についての本が出来上がる。こういうアイデアもあると思います。

そして、そういった歴史を編纂する中で地元の歴史を学ぶだけでなく、自分達のコミュニティ、共同体が日本の歴史の中にいかに関わっていたかを知ることによって、郷土についての誇りを持つことができるわけです。過去に石炭産業で栄えたわけですが、エネルギーの石炭から石油への転換によって、確かに地域の経済は衰退いたしました。またその他にもこの地元の共同体に関わる分野で、いろいろな問題がこれに関わって予測されております。農業もそのうちの一つですけれども、お聞きしましたところによると現在76戸の農家があって、その内6戸の農家に後継者がいる、つまり農業としてやって行ける状態であるとお聞きしました。ですから、むしろ今こそこういった将来の問題に備えて、企画を練って解決策を図る時期だと思っております。米問題というのは経済的に大きなインパクトを持った問題だと思っておりますが、この地元の共同体の将来に大きな影響を与えかねな

い問題だということは、今でもはっきりしています。そういう場合、園芸の方に方向転換するということのも一つの道ではないかと思えます。私ども外国人の目からしますと、日本ではお花の需要が非常に多いように見受けられます。その結果として、米からの転換ですべてのことが解決するわけではありませんが、園芸の方に転換するのも解決策の一部にはなりえると思えます。また農業祭を催すというような考え方もあると思えます。その農業祭というものを通じて、一般の市民の方がどのような製品を欲しがっているかとか、あるいは新しい農産物を生み出した時に、その新しい使い方食べ方があるかということを経営者間で情報交換できる、情報を集めることができる素晴らしい機会になるかと存じます。それに関連した輸送の問題ですけれども、参加者の中からこの地域について輸送に問題があるというお話がでました。確かに大きくて重くてかさばる製品を作り出す企業にとっては問題でしょうけれども、付加価値が高くてかさばらなくて輸送の手間がかからない製品については、それほど重要ではないかと思えます。そういうふうな製品の種類としまして、いわゆる知的製品というものがあります。わたくしアメリカでそういった製品を扱っている企業とよくお仕事するんですが、この場合輸送は電話回線、テレコミュニケーションを通じて発送されますので、トラックを用いる必要はありません。確かにトラック輸送で福岡とこちらをつなごうとすればかなり時間がかかりますが、テレコミュニケーションを使えば瞬時につなぐことができるんです。このような種類の企業を誘致する、奨励する一つの方法として、いわゆるビジネス・エンキューバタというものを設置する方法がございます。ビジネスの培養機、付加機、保育器といいましょうか、一番最初のビジネスの発生期を助けるための施設です。これをエンキューバタと申しますけれども、これを設置するののも一つの方法です。例えばなにかビジネスをしたいとおっしゃっている方がいる場合、施設を共有するわけです。一番最初の部分を育成するわけです。例えば秘書とかコピー機とかFAXとか、それらは非常にコストがかかりますけれども、これらのある施設の中に置いてみんなで共有するわけです。そしてある程度そのビジネスが育ってから、その施設を出て独立した事務所を構えればいいわけです。こういうふうな形態ですと人間が2人3人、あるいはたった1人のアイディアを持った人でも新たにビジネスを始めることができるわけです。過去20年間のアメリカの歴史の中で、こういった形でスタートした小さな企業の方が雇用を増やしています。アメリカでは大企業よりもこういった小企業の方が相対的に見て雇用を増やしております。それからもう一つ、この川崎町でアメリカ方式を取り入れて成功するのではないかとと思われるのは、アメリカでテレコミュニケーション、電子通勤というのがございます。このテレコミュニケーションのやり方ですと、まず原則としてその方は自宅でコンピュータを使ってお仕事をします。お仕事の成果は電話回線を使って発送されるわけです。もちろん誰にでもできるお仕事ではありませんけれども、そういうことができる方もいらっしゃるわけです。アメリカにおきます最近の調査によりますと、そういうやり方でお仕事をしている方は、普通の企業の事務所の中でお仕事をしている人と比べて、同等かそれ以上の効率をあげているという結果が出ております。

それから昨日私達の話合いの中で出たことに、観光の奨励ということがあります。それらを発展させることによって、ある程度の資金が地元に着くということが期待されるのではないかと思います。例えば町の中で小さな改造、変化を行なうわけですが、ある地域では一方向にしてしまうと、ショッピングセンター地区では歩行者天国になってしまうとか、そういうことによって他から人を引き寄せることができると思います。もしそこが楽しい場所ならば、町内だけでなく町外からもそこに買物にくると思うんです。そういったささやかな改造を積み重ねることによって、この町がより多くの人々にとって魅力のある町に変わっていくと思います。と申しますのも、この町にはもともと美しい自然というものがあるからです。もう一つのアイデアとして、全部ではなくて一つでいいんですが、もとの炭鉱に手を入れて改造するというのがあげられます。そこに観光客を入れて、炭鉱の中が実際どうであったかを見学してもらおうわけですが、雇用の面で考えますと、まずその改造する人が必要ですし、元炭鉱労働者の方で炭鉱の中を説明できる人が必要です。そういう需要が生まれてくると思います。アメリカの方にはこういったケースがたくさんありまして、元炭鉱地域を観光に転換している、つまり炭鉱そのものを観光地しているわけですが、観光客はそれがどういうものだったのかわからないので、実際にそれを見たいと大勢集まってくるわけですが。

それから私達の話合いでは、この町にはミュージック・コンサートの可能性もあるんじゃないかということが出ました。若者あるいは気持ちの若い人にとっては、これは非常に可能性のあるものだと考えます。あるいは興奮、ときめきが欲しいという方には、この周辺の山はハンググライディング・スクールに適した場所だと思われます。この町は本当に美しい山々に囲まれていますので、ハンググライダーをやりたいという方には非常に魅力ある場所だと思います。

それからもう一つささやかな提案ですが、山を利用したウォータースライド、水の滑り台を建設することも一つの手だと思います。

私が言いたかった最大の要点は、解決策はいくらでもあるということです。とにかくやる意志があれば、おのずと道は開かれてきます。そしてその道を進むと解決策に至るわけです。その場合に何をやるかという優先順位を決めなければなりません。みんなで話し合っていて、どこから手をつけるかという優先順位を付けなければなりません。その可能性のいろいろな策としましては、順番を決めるのは外の人ではなくて町の人だと思います。可能性はこのようにいろいろあるわけですが、今回のフォーラムに出席いたしまして、この町のみなさんは自分の意志をはっきりと示されたと思いました。多くの可能性をほかの人から聞いて、自分達はそれをやりとげようという意志を示されたわけですが、ですから、もし次に私達が川崎町を訪れたときは、豊かな発展した町の姿を見ることになるであろうと私は確信しております。

どうも皆様、本日はありがとうございました。(拍手)

司会

今、リチャードさんの報告を聞いておりまして、日本がホスト国になりましたサミットを思い出したような気がします。国外からの招待者のご報告でございました。

それでは地元から商工会議所青年部の樋口秀隆さんからのご報告でございます。どうぞ、お聞きになってください。

樋口秀隆（川崎商工会議所青年部）

今くわしいご報告がございましたので、地元の方からのご報告は全体に関する感想を述べさせていただきたいと思います。まずご報告の前に、今回の企画は私達が今まで一度も経験したことのないような、大変貴重な体験をさせていただきました。そのことのお礼を三つのグループの方にしたいと思います。

まず最初は、町長をはじめ行政のみなさんにお礼を申し上げたいと思います。本当に幸運な機会を与えていただきました。本日おみえになっている国内外の15人の先生方は、講師としておよびした場合、お一人数十万の講師料をお支払いしてもよいと思われる位の、大変経験豊かな方々ばかりでした。ということは500万にとどころかという講師陣のご意見を半日かけてお聞きしたわけですが、このような貴重な場を与えてくださった行政のみなさんに、まずお礼を申し上げたいと思います。

それから、なによりも昨日の講師の方々、海外からは8人の方、国内からは7人の方がこのような田舎の町に足を運んでいただいたこと、そしてこの15人のメンバーをコーディネートしてくださった新井先生に重ねてお礼を申したいと思います。

最後に今回の企画を準備してくださったボランティアの方々にお礼を申し上げます。この数日間本当に降り続く雨の中、とどこおり無く作業できました。仕事をもちながらのボランティア活動に、私共も今度の準備が間に合うかどうか心配の中に昨日やっとこぎつけて、夜なべ談義では屋外の予定が屋内になったにもかかわらず、大変な準備をしていただいたボランティアの皆様に御礼を申し上げます。

それでは中身の方に入っていきたいと思いますが、最初はやはり心配から始まりました。なによりも初めての経験であるということ。いろんな溝と垣根があったということ。言葉の垣根、文化の溝、時間の無さという壁もありました。最近ではアメリカで服部よしひろくんという留学生が、ピストルの不慮の出来事で亡くなるということもありましたし、難民の問題、都市部ではイラン人とのトラブルといった国際間の垣根や溝を感じていましたし、そういったものが先に立ってしまったんですが、しかしミスターティーチの最初のコメントにより拭いさることができました。

実は、私達は前もって各分野の7人の方にレポートを書いていたいただきました。それを15人の先生方には前もってお渡ししておきました。その中でミスターティーチの最初のコメントが「驚いた」と。この川崎が抱えている問題は今世界各地が抱えている問題と全く同じではないかということから始まったわけです。つまり国が違い、距離が離れていても、それぞれ悩んでいることは同じなんだということ。いろんな条件の中で平和という2文字にたいして、一生懸命に努力しているんだという共通の認識を持つことができましたこと

は、大変幸運だったと思っております。

それから、その後先生方から先程の報告にもございましたように、本当に一つ一つが心に響くようなアドバイスをいただきましたが、この後新井先生から若干の報告もございませし、その一つ一つを述べますと大変な時間がかかりますので、今日はその中から私が最も感動した言葉を述べさせていただいて、報告にかえさせていただきます。

「教育とは自分の運命に自分が参加する方法を教えるものだ。我々15人の講師は、この町の運命に少しでも参加できたことを大変嬉しく思います。」

私達自身が自分の運命を変えていくためにいろんなことを学んでいくんだと。そしてその運命を変えていくためにこうして関わってきた15人の講師の皆様の熱意と情熱を、私達は受取ました。大変感動いたしました。これまで大変な経験を重ねてこられた先生方の士気の一部に触れさせていただきまして、感動しましたけれども、同時に大きな反省もいたしました。最後にコメンテーターの方から「自身を持ってこの町のプランを持っているか」と聞かれた時に、手を挙げる人が最初いなかったんですね。つまり、それぞれわがままな意見を持っておりまして、みんなが共通した柱の下に集っていたかということに疑問をもちまして、素直に手を挙げることができませんでした。我々は合意に達したプランをはたして持っていたのだろうかということに気が付きました。このことを反省材料として、今後の結果を出すために努力していきたいと思っております。そして最後に講師の先生方から宿題をいただきました。この後の結果を必ず教えてくださいとのこと。川崎町の5年後、10年後にこうなったということをそれぞれに教えてくださいということ。これは身震いのするような宿題でございました。しかも、今までやってきたことの物足りなさに気付いた私共は、この宿題について早速夜なべ談義の中で数人の者と話しをしまして、決意を新たにいたしましたところでございます。5年後、10年後に自身をもって報告できる町にしなければなりません。昨日参加した地元の人々は、今日この決意に燃えていることを約束いたします。昨日の国際フォーラムで、私達が心に決めたことは以上のようなことです。

その後2部の構成といたしまして夜なべ談義、戸谷山荘の方にあがりまして、それぞれのお国自慢の踊りだとか歌だとかパフォーマンスが次々でてまいりまして、最後は地元の炭鉾節がでまして、楽しい一時を過ごすことができました。

今度の企画は、我々が決意を新たにするのに十二分すぎるほどの企画でした。本当に感謝をいたしまして、この報告を終わりたいと思っております。重ねて今日・明日開催されます雪舟サミットの大成功を祈念いたしまして、報告とさせていただきます。

We Promise We Play My Tawn Future Plan .

ありがとうございました。Thank You Very Much .

(拍手)

司会

地元を代表いたしまして、樋口さんの方からの報告でした。

それではここで、昨日のフォーラムのまとめをいただきましょう。コーディネーターを

つとめていただきました新井教授からのご報告です。お願い致します。

新井 潔（近畿大学九州工学部教授）

近畿大学の新井です。昨日は国際フォーラムということで、国内外の専門家と地元の皆さんと意見交換をしたんですけども、私はよく“国際フォーラム”とか“国際シンポジウム”とかいうものに参加することがあるんですが、そのシンポジウムと申しますと、専門家の方々がステージの上ののってそれぞれ意見を言って、それを地元の人たちが聞いているということで、それも一つの方法ではあるとは思いますが、なんとなくしっくりしないものが私自身ありました。この話しが持ち上がった時に、どうせ国際フォーラムをやるんだったらフォーラムらしくやりたいと、同じラウンドテーブルでどちらが上座に付くかというのではなくて、一緒に話しがしたいんでそういうふうにしようじゃないですかと言ったら、地元の人たちもそれに賛同していただきましてフォーラムをやることができました。まず最初に、私も会場を見たんですけども、本当に素晴らしいんですね。会場の真中に2,000鉢の花が置いてありまして、それを見ただけでも地元の人たちが我々をいかに歓迎してくれているかということがわかりまして、心をうたれました。本当にありがたいと思います。

最初の地元の5人の方々からご意見を伺ったんですけど、私が伺ったところ不安といいですか、将来に対する漠然とした不安と希望が混在しているという印象をもちました。その不安というのは非常に複雑で、人それぞれ違うし、じゃあその不安の原因はなにかということはその簡単には言えることではないと思うんですが、ただ一つ私が感じたことは、やはり若い人たちが東京とか大阪とかにどんどん行ってしまい、なんだか取り残されたような漠然とした不安が大きいのではないかなと感じました。そうするとお年寄りが増えて高齢化が進んでいく。そうすると町が寂れていくのではないかという不安をお持ちではないかと思うんです。それに対して希望というのは次世代にたいする希望というものを感じました。子供たちのために本を読んであげているという方が実際に朗読してくださったんですが、やはり感銘を受けました。やはり子供の教育はお腹の中にいる時から始めなければならないんだという話しから、大学生位になってしまうともう自立しますので、子供の頃から高校生位までは、地元の伝統といいますか暖かさの中で育てたいという取組みをしたいというようなことは感じました。その後フリーディスカッションに入ったんですが、その中で非常に印象に残っているのは、皆さん不安を感じてると。川崎はイメージが悪いとかですね。けれどもイメージが悪いと思っているのはどちらかというと地元の中、あるいは筑豊の中であって東京の人がイメージが悪いなんて全然思っていないわけです。私自身も5年前に筑豊へ来ましたが、イメージが悪いなんて全然考えてもみませんでした。もともと私も、飯塚の方の近畿大学なんですけど、大学があるっていうので気軽に行くよと言ったのは悪いイメージなんか無かったからです。もし悪いイメージがあれば私は絶対に来ません。だからイメージが悪いと思っているのは皆さん自身という面もあると思うんです。その中で福岡大学の根本先生がおっしゃっていたんですが、よい町というのは自分た

ちがよいと思えばいいんで、他と比較してこっちがいいとかあっちがいいとか言うのはおかしいと。やはり皆さん自分の町が好きなので自分の町がいいから自分の町に住んでいるのではないですかということなんです。そうだなということをやなべ談義でおっしゃっている方がいました。

ではあとはどうしたらよいか。問題があることは確かなんですが、やはりその中で自信を持って、何かを変えていかなければならないことも確かなんです。その変えていく時に、大塚キャロルさんという方、大塚さんという方が国際結婚されているんですが、焼おにぎりの中にうめぼしを入れるという話して、焼おにぎりの中にうめぼしを入れて食べるというのは日本人にとってはえ〜という感じなんです、だからといって食べないのはおかしいと思うんです。それがおいしいのであれば、やはり違ったものでも試してみたいんじゃないかなと。変化というものに対する漠然とした不安、いくら川崎町の伝統といっても世の中変わっているんですから、変わらなければならぬ。その時に自信を持って、変化を恐れないでチャレンジしていったほうがよいのではないかな。変わるべきは町の経済を変える、それも一つかもしれませんが、まず物の考え方、見方を変える必要があるんじゃないかというお話もありました。その時に重要なのは一人一人考えるのではなくてみんなで考えていこう、みんなで一緒にアイデアを出して考えていったらいいんじゃないかと。その時にはお祭りとかイベントとかフォーラムを通じながら、一緒に町のイメージ、先程樋口さんがおっしゃってました将来5年後、10年後、20年後、100年後でもいいんですが、これから町がどういうふうになっていったらよいかというイメージと一緒に考えようではない、それが重要なのではないかと。それをアイデンティティとおっしゃってた先生もおられました、よくコーポレート・アイデンティティ、CIと言いますが、そういう地域のアイデンティティをどこに求めるかということがひじょうに大事なのではないかという議論もありました。ただ、その中で注意しなければならないのは、目的は地域を変えることではないんじゃないか。変な言い方かもしれませんが、よい地域にすることが目的なのではなくて、我々が楽しく、幸福になることが究極適な問題なんです。そのへんを勘違いしますと、みんな義務感から自分たちの町をよくするためにお前これ働けということになって、辛くなって長続きしません。町を変えることが目的なんじゃなくてみんなが楽しくなるのが目的なんだから、町づくりそのものを楽しく、どうやったらみんなが町づくりを楽しくできるのかをまず考えようじゃないかと。そういう時にはフライング・エレファントの話がでましたけれども、ときめきとかワクワクするとか、そういうものをうまく作り出していく、そういうことを考えていこうという話でした。

あと具体的にはいろんな案がでました。ティーチさんがだいぶ言われましたので繰り返して言いますが、例えば町並み、商店街ですけれども、道路が狭くて不便だというふうに考えるかもしれませんが、ある外国人がヨーロッパ的な感じで非常にいいと。かえって狭い道路を残した方がよい、そのかわりきれいに飾って、世の中がどんどん変わっていきまますから古い文化を残すことで価値がでるんじゃないか。例えば切手とかお金とか、皆さ

ん今使っている時はあんまり意識してませんけれども、100年たちますと価値が出てくるわけです。みんなが価値が無いという時に一生懸命保存して、世の中の変化が非常に早いですから、50年後にはものすごい価値がでるかもしれません。こういうように保存するというのも必要だと思うんです。変化というのは物理的な変化ではないと思うんです。今までのやり方、習慣を変えるべきであって、もちろん外見を変える部分もあるでしょうが、変えない部分があっていいんじゃないかと思います。

あと観光農業とか道路の問題とか、竹がだいぶ採れるらしいですね。その竹を使ったものをやったらとか、本当にいろんなアイデアが出てまいりました。そのアイデアというのはアイデアでしかないですから、アイデアをたくさん聞くというのは大事なことです。その中から自分たちの地元にはどれがあるのか自分達自信で選んでいかなければならない。そんな時にはボランティアと行政の協力が必要なのではないか。今回行政の方々、あるいはボランティアの方々から夜なべ談義の時にお聞きしたんですが、樋口さんも先程おっしゃってたんですが、行政とボランティアがこんなに一緒にしたことは今までなかったということなんですね。ボランティアも福祉の団体は福祉、農業は農業、商業会は商業会と別々にやっていた。これが一緒になって今回やれたというのは貴重なことではないでしょうか。しかも、普段やってないお祭りなんていうのは非日常の世界ですけども、その非日常の世界を第三者といいますか、外国から来た人とか国内でも他の地域の人と新しいものをつくっていくというのは非常に素晴らしいことだと思うし、是非これを持続する、持続することが重要だと思います。持続するためには先程申しましたけれども、楽しくやるということが重要だと思います。そしてこれも何人かの人が言っていたんですが、川崎はすでに変わっている。こんな取組みは非常に難しいですよ、しかしそれをやれたってことは川崎そのものが変わっているんじゃないかと。すでに一歩踏み出しているというようなことを言っていました。

これが私の印象です。フォーラムを支えてくれた原口町長、行政の皆様、地元のボランティアの皆様にあたらめてここでお礼を言いたいと思います。どうもありがとうございました。(拍手)

司会

どうもありがとうございました。コーディネーターをつとめていただきました新井教授からまとめをいただきました。

今回はこのように8名の国外の招待者におみえをいただいたんですが、代表いたしましてコーディネーターをつとめていただきましたデービット・クルツカルさんからお礼のお言葉をいただけるそうです。どうぞお願い致します。

デービット・クルツカル

(通訳)短い言葉ですけども、お礼の言葉を述べさせていただきたいと思います。この壇上にいる8人はこの2日間、素晴らしい時を過ごさせていただきました。あたたかいおもてなしをしていただき、美しい景色も見ることができました。本当に私達は心より感

謝しております。

川崎町長の原口様、そしてスタッフの皆様方に、私共に対するおもてなしに心からお礼を申し上げたいと思います。また新井教授に私達にこのような機会を与えてくださったこととお礼申したいと思います。

皆様、どうもありがとうございました。(拍手)

司会

大変に有意義な国際フォーラムができたようでございます。その報告を私共にいただきまして、本当によかったとそのように感じておりました。

参加をいただきました皆様にもう一度大きな拍手を。(拍手)

5年、10年先を楽しみにしております。どうもありがとうございました。

さあ、プログラムをひもといていきますが、お時間が若干下がったようですね。さて、これからは地元の芸能を皆様にご覧いただくわけでございます。ステージの方、準備でき次第皆様にご覧をいただきますので、どうぞそのまましばらくお待ちください。